

トランスミッションオイルの点検

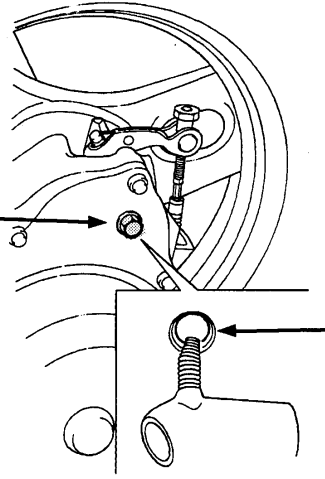
《オイルの量》

- 平坦地でメインスタンドを立て、エンジン停止2～3分後にボルトを外し、ミッションオイル量がチェックボルト穴まであるかを点検します。
- 油面がチェックボルト穴より低いときは、チェックボルト穴からオイルが出てくるまで、オイルを補給してください。
- 補給後、オイルチェックボルトを確実に取付ます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル ウルトラーU(4サイクル二輪車用)”またはAPI SE級の10W-30のエンジンオイル。

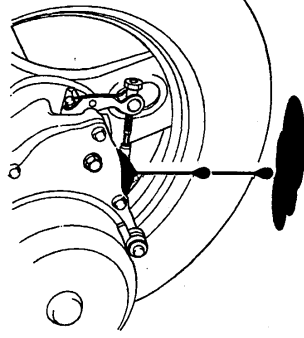
オイルチェックボルト



チェックボルト穴

《油漏れ》

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



注意

- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

燃料漏れの点検

燃料コック、燃料タンク、ホース、パイプ、キャブレターなどからガソリン漏れがないかを点検します。

灯火装置、方向指示器の作用の点検

- 前照灯(ヘッドライト)、制動灯(ストップランプ)および尾灯(テールランプ)のスイッチを作動させ点灯具合を点検します。また前照灯の明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあてて点検します。
- 左右の方向指示器を作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- 前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)、制動灯(ストップランプ)、方向指示器のレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

シャシ各部の給油脂状態

シャシ各部の給油脂状態が十分であるかを目視などにより点検します。